



松應寺

松應寺は、永禄3年(1560年)徳川家康公が父・松平広忠公菩提のために創建した寺院。広忠公御廟所は岡崎市指定文化財。家康公をはじめ秀忠、家光など歴代将軍が参詣した。家康公お手植えの「松」が、寺名の由来で、松本町の名もそこから名付けられた。かつて界隈は門前町、花町として大いに栄え、最盛期には約250名の芸妓が在籍したという。

天野 この町ほど地域内でのコミュニケーションがとれているところは少ないと思いますよ。
編 その通りですね。11月26日に行われた「松應寺横丁にぎわい市」は今までの経緯を踏まえて実施されたんですか？
天野 そうですね。アンケートの「どんな催

結力も強くて、いい町だなあという印象を元々もっていました。それもあって僕も何か力になればと思って、町内会の会合に参加させていただくようになりました。
編 その空き家問題を解決するために、プロジェクトとしてどんな動きをされているのでしょうか？
服部 まずは町の成り立ちからお話をさせていただきますと、「松應寺」は徳川家康の父である松平広忠が祀られている由緒あるお寺です。戦争によって門前町やお寺の境内一帯が焼け野原となり、闇市が生まれて人が集まるようになって町が形作られてきました。そして今では空き家が目立ち、衰退していつてしまったのが現状です。松應寺界隈

一帯の地権者がバラバラなので、まずはこの問題をクリアする必要があります。
春山 プロジェクトとして行ったのは、服部さんが中心となって誰が地権者で空き家がある状況なのかを調査しました。何かをするにも地権者とコンタクトがとれなければ進みませんからね。
天野 アーケードが建物に組み込まれていたり、道路が狭くて再建築をすることも難しかったりとなかなか「筋縄ではいかない問題もあるんですよ」。
築瀬 あとは町民からアンケートをとって、町のどこが魅力で何が課題なのかを把握しましたね。調査をすること自体もプロジェクトの一部なんです。
編 アンケートの結果はどうだったんですか？
天野 魅力に関しては、「祭りの連帯感」「歴史や伝統を誇りに思っている方が多くて、課題に関しては「少子高齢化」「空き家」を問題視する方が大半を占めています。



アンケート結果を説明する天野さん

しがあっていいと思うか？」という項目で、回答が一番多かったのは「松應寺の緑日」です。商店が減ったことで、買い物不方便になったことが影響していると思います。
服部 寺の界隈で福祉団体が主催するバザーを不定期で行っているの、そのイメージもあつたんじゃないかな。
春山 確かにそれはありますね。
編 イベントのコンセプトは緑日というわけですね。
服部 そうですね。夜の町というイメージが強いと思いますが、これからは昼のにぎわいを取り戻すことが大事だと思います。お年寄りはもちろん、子どもや親御さんたちが来やすいイベントにしようと駄菓子屋や絵本の読み聞かせなどを加えていきました。
天野 あと、なによりも嬉しかったのは町内の人がお店を出したいと手を上げてくれたことなんです。松本町ブースでは焼き鳥、おでん、そして近所のお店のものを売ったりしましたね。



「松應寺横丁にぎわい市」では、参道に人々が行き交った

春山 手を上げたか、命令だったか(笑)。全員(爆笑)
春山 こんなに大きいイベントをやるんだったら、声をかけてよと後から要望をいただきました。僕は謝罪行脚の日々でした(笑)。
天野 来場者が1000人もいましたからね。もちろんマスコミの方々の力もあつたと思いますけど、回覧板やポスターなど地元の力が大きかったと思います。
築瀬 500人くらい来ればいいかなあと期待していましたが、まさかこんなに来るなんて思ってもみませんでしたね。
編 来場者はほとんどが地元の方ですか？
築瀬 いやいやいやいや！この町の人口が370人ほどなので、ほとんど町外から来てくれたんです。
編 そうなんですか！この地域には駐車場がないですよね。それで1000人はすごいですね。
天野 イベントを実施する時って集客が本



岡崎まち育てセンターリタ事業開発チームリーダー 天野裕さん 岡崎市議会議員 築瀬 太さん 松本町活性会議 座長 春山 八廣さん 松應寺 住職 服部 善樹さん

松本町の仕掛人衆

取材・文/鈴山泰史 撮影・構成/浅井和親 写真提供/松本町活性会議

戦後、花町として栄えた松本町。活気に溢れた時代を駆け抜けたこの町には、昭和レトロな風情が今なお残る。昔の町並みを懐かしむ美しい情緒とは裏腹に、少子高齢化や空き家問題といった解決すべき課題も内包している。2011年11月26日(土)に行われた「松應寺横丁にぎわい市」。実に1000人を動員したこのイベントは、町を再生しようという意志を持った人々で構成された「松本町活性会議(通称:松應寺横丁にぎわいプロジェクト)」によって形作られた。松本町を新しいステージへと導くプロジェクト仕掛人による松本町座談会を敢行!



現役の木造アーケードが昭和空間を醸し出す

「松本町活性会議」が発足したきっかけは？
春山八廣さん(以下春山) そもそも天野さんが授業の一環で松本町を散策されたことがきっかけですよ。
天野裕さん(以下天野) そうなんです。松本町は前から気になる場所ではあったんです。僕は愛知学泉短期大学で非常勤講師をしているんですけど、町に出てもおもしろいものを見つけないという目的で学生と歩いていました。奥に踏み入ってみると、昭和レトロな映画のセットのような町でやっぱりおもしろいところだなと思ってふらふらしてました(笑)。
服部善樹さん(以下服部) 昨年の4月に境内を散策する怪しい人物がいたんですね(笑)。誰かなあと声をかけたのが天野さんでした。それから授業の発表会を「松應寺」で実施してもらったり、空き家をどうにかできないかと相談したりする仲になったんです。
編 実際に発足したのはいつごろになりましたか？
築瀬太さん(以下築瀬) 正式に町内のプロジェクトとして動き始めたのは昨年の7月から。ただ、それまでは町内会の役員と一緒にみんなで何かしようと話し合いをしてはいましたね。
天野 授業でお寺を訪れる中で服部さんのお話を聞いたりして、本当に空き家もつたいなと思っていました。3年前から神明宮のお祭りに訪れているのですが、松本町の山車が本当に立派なんですよ！町の人の団

当に難しいんです。いつも駐車場の問題に悩まされますし。でも蓋を開けてみてびっくり！こんなに人が集まるなんて。

編 これだけ大成功したのは、やはり周知な準備の賜物ですね。

天野 それがですね。話し合いをしてきたという下地はありましたが、あれよあれよという感じでできてしまっただけです。

春山 年行司というお祭りの実行部隊が準備を手伝ってくれましたからね。

築瀬 春山さんの号令ですぐに人が集まりますから(笑)。

春山 ありがたいことに老人クラブの方々も手伝ってくれて。手際がいいので、空

き家の片づけが早い早い(笑)。

一同 (爆笑)

服部 子どものお囃子も2週間前に決まってる、1週間前から夜7時にお稽古が始まったんですよ。だいたい2週間くらいでバタバタと決まっていきましたね。

編 そうだったんですね！来場者はどれくらいの方が多いんですか？

天野 お年寄りの方が多かったですね。当日のアンケートによると、50代以上が半数で、一番多かったのは70代かな。

服部 実際に何十年ぶりに来たという人もいらっしやいました。懐かしいなあという声がチラホラと聞こえてきましたね。

天野 どこか同窓会のような雰囲気がありましたよね(笑)。

編 歴史ある町ならではの出来事ですね。今回の「にぎわい市」は3月25日(日)に行われると聞いていますが、どんな内容になりそうですか？

春山 具体的に決めているのはこれからですね。個人的な希望としては、僕らが商品や料理を僕らが売ってお手伝いするのでお店の人もっと参加してもらいたいですね。

服部 空き家の所有者の方から問い合わせがあったら、都合があれば参加したいという声もいただいていますよ。

築瀬 嬉しいですね。

服部 11月の「にぎわい市」では一時的に4つの空き家を借りてお店を出すことができました。プロジェクトが始まる前から年に何回かは住みたい、借りたいという人から問い合わせはあるんです。

天野 空き家といってもほとんどが物置や倉庫に使われていて、現状は借りられないところが多いんですよ。

服部 空き家を貸してもいいよという所有者の方はまだいないのですが、イベントに参加してくれる人が増えればいずれは変わっていくと思います。ゆくゆくは空き家でお店ができた、定住する人を増やしていきたいですね！

天野 僕はみんなが集まることができるところをつくりたいと思っています。そこでワークショップだったり、手作り雑貨を販売できたり、昔遊びの講座があったりしたらおもしろくないですか？

築瀬 目指すところではありませんね。プロジェクトとしてはこれから貸し手や借り手の仲介役を担っていきたいんです。その土壌をつくるためにも、にぎわいを創出していきますよ！

編 素晴らしいですね！いい循環がうまれていきますね。

春山 ホントそうですね！あとは、武将隊が来てくれれば言うことなしです(笑)。

服部 せっかく徳川家康公が生まれ変わったのなら、父である松平広忠公にお参りに来ないと。3月6日が広忠公の命日で、旧暦の3月6日を今の暦になおすと今年3月27日になります。3月25日に次のイベントを開催するので、ちょうどいい時期なんです！

春山 無理矢理ですねえ(笑)。

天野 きっと来てくれますよ！これをきっかけにこの町の歴史を知るきっかけになってほしいですね。

編 では最後に今後の抱負をお願いします！

天野 「にぎわい市」は定期的に続いていくと思います。あとは、いかにこれほど日常にぎわいに繋げていけるかが課題ですね。

服部 確かにそうですね。にぎわい市を開くためのプロジェクトではないので、イベント実施が目的になってはいけません。

春山 世代が変わる中で、ここでお店を出してもすぐに成功するのは難しいとは思いますが、ただ、継続していくことで好循環をうみだしていきたいですね。

築瀬 戦後から栄えてきた松本町ですが、今は世代交代の時期で新しい町に変えていかなければいけない。私たちが町をどういう方向に進めていくかを指し示していく必要があると思います。少子高齢化、空き家などの問題がありますが、安全で安心なコミュニティをつくりあげていきたい。壊してつくる開発というよりも、強みを伸ばしてついで次の世代にうまくつなげていければいいと思います。

編 これからの松本町に期待しています。今日はありがとうございました！

次号は「第二回松應寺横丁にぎわい市」の詳細とともに、「松本町活性化会議」の実施事例をより詳しくご紹介いたします。

松本町の仕掛人衆